

研修カリキュラム表（臨時的代替方法・介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名： 有限会社プログレ総合研究所

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画				臨時的代替方法による実施内容			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数				実施内容			
1 職務の理解 6 時間		通学	通信	合計	1 職務の理解	1 職務の理解	通学	通信	合計
	(1) 多様なサービスの理解	3	0	3	(1) 講義のみ	講義部分を通信形式（視聴覚教材・テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	3	3
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	0	3	講義及び演習：視聴覚教材の活用や講師の現場の体験談を聞き、働く現場のイメージをつかみ、ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの業務の流れについてグループでフローチャートを作成する。	講義及び演習部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	3	3
2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間		通学	通信	合計	2 介護における尊厳の保持・自立支援	2 介護における尊厳の保持・自立支援	通学	通信	合計
	(1) 人権と尊厳を支える介護	0.5	2.5	3	(1) 講義及び通信講習	講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	3	3
	(2) 自立に向けた介護	1	5	6	通信講習・講義及び演習：介護における自立とは何かを学び、その人らしさを尊重するために、介護職として配慮すべき点および介護予防についての考え方にもとづいたケアの方法についてグループで話し合い発表する。	講義及び演習部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	6	6
3 介護の基本 6 時間		通学	通信	合計	3 介護の基本	3 介護の基本	通学	通信	合計
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	1	2	(1) 講義及び通信講習	講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	2	2
	(2) 介護職の職業倫理	0.5	0.5	1	(2) 講義及び通信講習	講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	1	1
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	1	2	通信講習・講義及び演習：事故予防、安全対策、感染予防など介護における安全確保を行う際に考えられることをグループで話し合い発表する。	講義及び演習部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	2	2
	(4) 介護職の安全	0.5	0.5	1	(4) 講義及び通信講習	講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	1	1

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
講義・演習（実習）	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間
(1) 介護保険制度	
(2) 障害福祉制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解	6 時間
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解	6 時間
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	

実施計画					臨時的代替方法による実施内容		
カリキュラム名・時間数				実施内容			
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間			
	通学 通信 合計			通学 通信 合計			
(1) 同左	1 2 3	(1) 講義及び演習、通信学習：代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについてグループでまとめ、発表する。	(1) 講義及び演習部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0 3 3			
(2) 同左	0.5 2.5 3	(2) 講義及び通信講習	(2) 講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0 3 3			
(3) 同左	0 3 3	(3) 通信講習のみ	(3) 同左	0 3 3			
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術	5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間			
	通学 通信 合計			通学 通信 合計			
(1) 同左	1.5 1.5 3	(1) 通信講習・講義及び演習：介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について理解し、配慮の必要な相手に合わせたコミュニケーションをグループで話し合い発表する。	(1) 講義及び演習部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0 3 3			
(2) 同左	1.5 1.5 3	(2) 講義及び通信講習	(2) 講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0 3 3			
6 老化の理解	6 時間	6 老化の理解	6 老化の理解	6 時間			
	通学 通信 合計			通学 通信 合計			
(1) 同左	1.5 1.5 3	(1) 通信講習・講義及び演習：加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴についてグループで話し合い発表する。	(1) 講義及び演習部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0 3 3			
(2) 同左	1.5 1.5 3	(2) 講義及び通信講習	(2) 講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0 3 3			
7 認知症の理解	6 時間	7 認知症の理解	7 認知症の理解	6 時間			
	通学 通信 合計			通学 通信 合計			
(1) 同左	0.5 0.5 1	(1) 講義及び通信講習	(1) 講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0 1 1			
(2) 同左	1 1 2	(2) 講義及び通信講習	(2) 講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0 2 2			

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
講義・演習（実習）	
(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	
8 障害の理解	3 時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 こととからだのしくみと生活支援技術	75 時間
ア 基本知識の学習	10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50～55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	

実施計画					臨時的代替方法による実施内容			
カリキュラム名・時間数				実施内容				
(3) 同左	1	1	2	(3) 講義及び通信講習	講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	2	2
(4) 同左	0.5	0.5	1	(4) 通信講習・講義及び演習：家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについてグループで話し合い発表する。	講義及び演習部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	1	1
8 障害の理解	3 時間	8 障害の理解	3 時間	8 障害の理解	8 障害の理解	3 時間	3 時間	3 時間
	通学	通信	合計			通学	通信	合計
(1) 同左	0.5	0.5	1	(1) 講義及び通信講習	講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	1	1
(2) 同左	0.5	0.5	1	(2) 講義及び通信講習	講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	1	1
(3) 同左	0.5	0.5	1	(3) 通信講習・講義及び演習：家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについてグループで話し合い発表する。	講義及び演習部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	1	1
9 こととからだのしくみと生活支援技術	75 時間	9 こととからだのしくみと生活支援技術	75 時間	9 こととからだのしくみと生活支援技術	9 こととからだのしくみと生活支援技術	75 時間	75 時間	75 時間
ア 基本知識の学習	12時間	ア 基本知識の学習	12時間	ア 基本知識の学習	ア 基本知識の学習	12 時間	12 時間	12 時間
	通学	通信	合計			通学	通信	合計
(1) 同左	0	3	3	(1) 通信講習のみ	(1) 同左	0	3	3
(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ	(2) 同左	0	3	3
(3) 同左	0	6	6	(3) 通信講習のみ	(3) 同左	0	6	6
イ 生活支援技術の講義・演習	51 時間	イ 生活支援技術の講義・演習	51 時間	イ 生活支援技術の講義・演習	イ 生活支援技術の講義・演習	51 時間	51 時間	51 時間
	通学	通信	合計			通学	通信	合計
(4) 同左	6	0	6	(4) 講義のみ	(4) 講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	6	6
(5) 同左	3	0	3	(5) 講義のみ	(5) 講義部分を通信形式（テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。	0	3	3
(6) 同左	6	0	6	(6) 講義及び演習：整容に関する基礎知識、整容の支援技術について講義し、利用者と介助者に分かれてパジャマ（上下）・浴衣の着脱の介助の実技演習を行う。	講義部分を通信形式（視聴覚教材・テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習）により実施する。実技演習については、同左とする（スクーリング時に「OJTを想定した演習」、「補講」を含めて実施）。	3	3	6

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
講義・演習（実習）	
(7) 移動・移乗に関連したところからのしぐみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したところからのしぐみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したところからのしぐみと自立に向けた介護	
(10) 排泄に関連したところからのしぐみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関したところからのしぐみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関したところからのしぐみと終末期介護	
(実習) [*] (50～55時間中12時間以内)	
介護実習	○時間
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間
在宅サービス提供現場見学	○時間
ウ 生活支援技術演習	10～12時間
(13) 介護過程の基礎的理解	

実施計画				
カリキュラム名・時間数			実施内容	
(7) 同左	12	0	12	(7) 講義及び演習：移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとかからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について講義し、利用者と介助者に分かれて側臥位から仰臥位・起き上がりから端座位・端座位から立位への介助の実技演習を行う。
(8) 同左	6	0	6	(8) 講義及び演習：食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしぐみ、楽しい食事を阻害するところとかからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について講義し、利用者と介助者に分かれて座位・仰臥位での食事の介助の実技演習を行う。
(9) 同左	6	0	6	(9) 講義及び演習：入浴・清潔保持に関する基礎知識、清潔行動のしぐみと清潔保持のための安全な援助方法、楽しい入浴を阻害するところとかからだの要因の理解と支援方法、羞恥心や遠慮への配慮について講義し、利用者と介助者に分かれて手浴・足浴・洗髪の実技演習を行う。
(10) 同左	6	0	6	(10) 講義及び演習：排泄に関する基礎知識、排泄環境の整備と排泄用具の活用方法、排せつケアを受けることで生じる生理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連について講義し、利用者や介助者に分かれてトイレ・ポータブルトイレでの介助、おむつ交換での介助・尿器での介助の実技演習を行う。
(11) 同左	4.5	0	4.5	(11) 講義及び演習：睡眠に関する基礎知識、安眠のための介護の工夫とさまざまな睡眠方法と用具の活用方法、ベッドメイキングの手順とポイントについて講義し、利用者や介助者に分かれてベッドメイキングの実技演習を行う。
(12) 同左	1.5	0	1.5	(12) 講義及び演習：死に向かう生の充実と尊厳ある死についてグループで話し合い、発表を行う。
(実習) [*]	0			(実習) [*]
ウ 生活支援技術演習	12			ウ 生活支援技術演習
	通学	通信	合計	
(13) 同左	2	0	2	(13) 講義及び演習：事例から、基本的情報の整理、アセスメント、介護計画(目標・内容)の立案、実施、評価、修正の流れについてグループで話し合い、発表する。

臨時的代替方法による実施内容			
(7) 講義部分を通信形式(視聴覚教材・テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習)により実施する。実技演習については、同左とする(スクーリング時に「OJTを想定した演習」、「補講」を含めて実施)。	6	6	12
(8) 講義部分を通信形式(視聴覚教材・テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習)により実施する。実技演習については、同左とする(スクーリング時に「OJTを想定した演習」、「補講」を含めて実施)。	3	3	6
(9) 講義部分を通信形式(視聴覚教材・テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習)により実施する。実技演習については、同左とする(スクーリング時に「OJTを想定した演習」、「補講」を含めて実施)。	3	3	6
(10) 講義部分を通信形式(視聴覚教材・テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習)により実施する。実技演習については、同左とする(スクーリング時に「OJTを想定した演習」、「補講」を含めて実施)。	3	3	6
(11) 講義部分を通信形式(テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習)により実施する。実技演習については、同左とする(スクーリング時に「OJTを想定した演習」、「補講」を含めて実施)。	3	1.5	4.5
(12) 講義部分を通信形式(テキストを熟読及び担当講師が作成した補助資料による学習)により実施する。実技演習については、同左とする。	0.5	1	1.5
(実習) [*]			
ウ 生活支援技術演習			12 時間
	通学	通信	合計
(13) 講義及び実技演習については、同左とする(スクーリング時に「OJTを想定した演習」、「補講」を含めて実施)。	2	0	2

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画					臨時的代替方法による実施内容				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数			実施内容						
(14) 総合生活支援技術演習		(14) 同左	10	0	10	講義及び演習：事例（要支援2程度、認知症）を提示し、以下のように実技演習を行う。①こころとからだの力が発揮できない要因の分析→②適切な支援技術の検討→③支援技術演習→④支援技術の課題の発見→⑤改善策の立案→⑥改善策の実演。	(14) だの力が発揮できない要因の分析→②適切な支援技術の検討→③支援技術演習→④支援技術の課題の発見→⑤改善策の立案→⑥改善策の実演。	10	0	10	
10 振り返り 4 時間		10 振り返り 4 時間			10 振り返り		10 振り返り 4 時間				
(1) 振り返り			通学	通信	合計	(1) 講義及び演習：研修を通して学んだことを振り返り、根拠に基づく介護についての要点をグループでまとめる。	(1) 講義及び演習：研修を通して学んだことを振り返り、根拠に基づく介護についての要点をグループでまとめる。	3	0	3	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		(2) 同左	1	0	1	(2) 講義のみ	(2) 講義のみ	1	0	1	
追加カリキュラム 時間											
計 (130 時間)		計 (130 時間)					(130 時間)				

※「9こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。